

カンボジア中銀決済システム「バコン」の普及状況と

アジア・大洋州における CBDC 検討状況

ソラミツ株式会社 宮沢和正

カンボジアでは、2020年10月に中央銀行(カンボジア国立銀行)が運営する決済システム「バコン(Bakong)」が正式に稼働を開始した。バコンの設計・開発などに日本のフィンテック・スタートアップである当社が参加した。

2023年末におけるバコンの利用者は1,090万人に達し、カンボジアの人口の3分の2以上である。2023年のバコンの決済金額は約3.4兆円であり、カンボジアのGDPの74%に匹敵する額に到達している。

また、カンボジアはバコンを活用してマレーシア、タイ、ベトナム、ラオスとのQRコードを活用したクロスボーダー決済を実現し、さらに中国、インド、シンガポール、日本などとのクロスボーダー決済の開発を行っている。

バコンは中央銀行の負債ではなく、民間銀行の負債として運用しているため一般的なCBDCの定義からは外れるが、中央銀行が一元的に管理・運営し決済バックボーンとして民間の決済手段の相互運用性を実現している点では非常に興味深い仕組みである。

しかしながら、現在のこのような成功に至る道程は決して平坦なものではなかった。民間銀行の反対に直面し利用可能な店舗は拡大せず、導入初期の2年間は利用が低迷した。その後カンボジア国立銀行は方針を変更し、民間の決済手段との連携・統合やQRコードの標準化、ホールセール決済を中心とした決済バックボーンの整備などに邁進した結果、民間銀行と中央銀行のWin-Winの関係を作り上げ今日の成功に至った。

本講演ではカンボジア国立銀行の背景事情や解決したかった課題、バコンの設計思想などに迫りながらバコンの全体像を説明する。

当社は、バコンの実績を踏まえて日本政府と連携しながらアジア・大洋州におけるCBDCシステムの横展開を進めている。内閣官房・財務省・経済産業省の「グローバルサウス未来志向型共創」などの支援を受けながら、2023年2月にはラオス中央銀行、2023年11月にはソロモン諸島中央銀行とそれぞれCBDCに関する実証実験を実施した。

2023年11月末には大洋州中央銀行総裁会議が開催され、当社はCBDC実証実験の成果を報告した。その結果、参加した8カ国の中央銀行から今後のCBDC検討の参加表明が行われている。当社はアセアン諸国においてもインドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアなどの中央銀行を歴訪し、CBDCシステムの提案及び情報交換を活発に実施している。これらの詳細につき本講演で報告したい。